ソフト事業

# 令和7年度実績に関する事務事業評価表

事業№. 11

## 1 基本項目

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 市民スポーツ推進事業 | 担当部署 | 課等名 | 生涯学習・スポーツ課 |
| 予算事業名 | 市民スポーツ推進事業 | | 係名 | スポーツ係 |
| 新規・継続区分 | 継続事業 | | 電話番号 | 0765-23-1046 |
| 事務区分 | 自治事務 | 予算科目 | 会計 | 一般会計 |
| 事業期間 | 開始年度：不明　終了年度：当面継続 | | 款 | 教育費 |
| 総合計画 目標名 | 目標２．未来につなぐまち | | 項 | 保健体育費 |
| 総合計画 政策名 | 政策09．いつまでも健やかなまちづくり | | 目 | 保健体育総務費 |
| 総合計画 施策名 | 施策21．いきいきとしたライフスタイルの実現 | 総合計画主な事業 | | 記載あり（評価対象） |
| 総合計画 基本事業名 | 基本事業21－１．生涯スポーツ・レクリエーションの推進 | 総合戦略との関連 | | 関連なし |
| 根拠法令 | | 集中プランとの関連 | | 関連なし |
| ＤＸ導入状況 | 導入予定なし | 評価対象年度の重点事業 | | 非該当 |

## 2 事業概要

| | |
|---|---|
| 事業概要 | 市民の生涯スポーツの普及・推進を図るための取組みを行う。<br>①スポーツ推進審議会の開催、②スポーツ推進委員の配置によるスポーツの実技指導や助言の実施（スポーツレクリエーション事業の実施）、③学校スポーツ施設の開放事業（施設管理を含む。）、④登山道の整備 |
| 対象 | 市民、施設等 |
| 手段（活動指標） | ・学校スポーツ施設の開放施設数 |
| 意図（成果指標） | ・学校スポーツ施設開放事業利用者数 |

## 3 指標

| | 活動指標名・成果指標名 | 単位 | R5年度 実績 | R6年度 実績 | R7年度 計画 | R7年度 実績 | R7年度 達成率 | R8年度 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動 | ① 学校スポーツ施設の開放施設数 | 施設 | 21 | 21 | 21 | 21 | 100.0% | 21 |
| 活動 | ② | | | | | | | |
| 成果 | ① 学校スポーツ施設開放事業利用者数 | 人 | 59,693 | 55,279 | 50,000 | 51,187 | 102.4% | 50,000 |
| 成果 | ② | | | | | | | |

## 4 コスト情報

| 区分 | | 単位 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 | R7年度 予算現額 | R7年度 決算額 | R7年度 次年度への繰越額 | R7年度 決算増減率 | R8年度 当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 事業費合計（A） | 円 | 9,510,047 | 9,589,116 | 10,653,000 | 9,940,888 | 0 | 3.7% | 11,425,000 |
| 事業費 財源内訳 | ①国庫支出金 | 円 | | | 282,000 | 282,000 | | | 296,000 |
| 事業費 財源内訳 | ②県支出金 | 円 | 282,000 | 282,000 | | | | | |
| 事業費 財源内訳 | ③地方債 | 円 | | | | | | | |
| 事業費 財源内訳 | ④その他（使用料、雑入等） | 円 | 2,169,811 | 1,936,869 | 2,551,000 | 1,947,853 | | 0.6% | 2,563,000 |
| 事業費 財源内訳 | ⑤一般財源 | 円 | 7,058,236 | 7,370,247 | 7,820,000 | 7,711,035 | | 4.6% | 8,566,000 |
| 人件費 | ①事務事業に携わる正規職員数 | 人 | 4 | 4 | 4 | 4 | － | 0.0% | 4 |
| 人件費 | ②年間所要時間 | 時間 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | － | 0.0% | 1,500 |
| 人件費 | ③人件費（②×@ 4,104 円）（B） | 円 | 6,156,000 | 6,156,000 | 6,156,000 | 6,156,000 | － | 0.0% | 6,156,000 |
| 総費用（A＋B） | | 円 | 15,666,047 | 15,745,116 | 16,809,000 | 16,096,888 | 0 | 2.2% | 17,581,000 |

## 5 取組内容

令和7年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等

・スポーツ推進委員協議会の運営補助
・派遣スポーツ主事による、スポーツ指導、県内の派遣主事との連携、市内小中学校との連絡調整
・体育施設夜間開放の実施、学校開放施設の運営・管理、使用料徴収、環境改善（ウレタン塗装工事）
・登山道の整備委託、片貝山荘の運営

## 6 評価

| 評価の視点 | R6評価 | R7評価 | 個別評価の項目 | 個別評価の判定 |
|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | A | A | ① 自治体関与の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ② 目的の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ③ 対象の妥当性 | 1 妥当である |
| 有効性 | A | A | ① 目標達成度 | 1 高い |
| | | | ② 類似事業の有無 | 1 なし |
| | | | ③ 上位施策への貢献度 | 1 高い |
| 効率性 | A | A | ① コスト効率 | 1 高い |
| | | | ② 実施主体の適正化 | 1 適正である |
| | | | ③ 負担割合の適正化 | 1 適正である |
| 結果(総括) | A | A | 計画どおり事業を実施することが適当 | |

今後の方針

| | |
|---|---|
| ○ 現状を維持 | 事業の拡充 |
| 事業の縮小 | 統合等の検討 |
| 事業の休止 | 終了又は廃止 |

方針の説明等

市の施策である生涯スポーツ振興に係る根幹事業であることから、継続して実施していくことが必要と考える。また、派遣スポーツ主事によるスポーツ指導は、ニュースポーツ（ボッチャ、ユニホック等）の普及向上にも寄与するとともに、スポレク祭の内容充実につながるなど、生涯スポーツの推進に大きな役割をはたしていると考える。

施設管理

# 令和7年度実績に関する事務事業評価表

事業№. 16

## 1 基本項目

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 室内温水プール建替推進事業 | 担当部署 | 課等名 | 生涯学習・スポーツ課 |
| 予算事業名 | 室内温水プール建替推進事業 | | 係名 | スポーツ係 |
| 新規・継続区分 | 継続事業 | | 電話番号 | 0765-23-1046 |
| 事務区分 | 自治事務 | 予算科目 | 会計 | 一般会計 |
| 事業期間 | 開始年度 平成29年度 / 終了年度 令和７年度 | | 款 | 教育費 |
| 総合計画 目標名 | 目標２．未来につなぐまち | | 項 | 保健体育費 |
| 総合計画 政策名 | 政策09．いつまでも健やかなまちづくり | | 目 | 体育施設費 |
| 総合計画 施策名 | 施策21．いきいきとしたライフスタイルの実現 | 総合計画主な事業 | | 記載なし |
| 総合計画 基本事業名 | 基本事業21－１．生涯スポーツ・レクリエーションの推進 | 総合戦略との関連 | | 関連なし |
| 根拠法令 | | 集中プランとの関連 | | 関連あり（評価対象） |
| ＤＸ導入状況 | 導入予定なし | 評価対象年度の重点事業 | | 非該当 |

## 2 事業概要

| | |
|---|---|
| 事業概要 | 魚津市の室内温水プールは、昭和54年３月の開設以来、約40年間気軽に親しめる施設として幅広く市民に利用されています。近年は、老朽化が進み、ボイラー等設備の故障や雨漏り等が相次いで発生し、快適に利用できる状態を保つのが困難な状況であり、その改修には多額の財政負担を伴います。平成26年７月に策定された「魚津市公共施設再編方針」では、温水プールは建替えることとしており、その設置場所と施設内容について検討を実施。令和元年度は内閣府の交付金を活用し、PFI導入可能性調査を実施し、令和2年度は整備手法等の検討、及び整備方針や整備スケジュールを決定する。 |
| 対象 | 市民、管理施設（総合体育館室内温水プール） |
| 手段（活動指標） | たくさんの市民や事業者の意見を取り入れながら、費用的に効率的・効果的な新しい室内温水プールを造る。 |
| 意図（成果指標） | 新しい室内温水プールが完成し、多くの市民が利用している。 |

## 3 指標

| 活動指標名・成果指標名 | 単位 | R5年度 実績 | R6年度 実績 | R7年度 計画 | R7年度 実績 | R7年度 達成率 | R8年度 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動 ① 工事進捗割合（工事出来高） | % | 5.20 | 77.32 | 100.00 | 100.00 | 100.0% | 100.00 |
| 活動 ② | | | | | | | |
| 成果 ① | | | | | | | |
| 成果 ② | | | | | | | |

## 4 コスト情報

| 区分 | 単位 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 | R7年度 予算現額 | R7年度 決算額 | R7年度 次年度への繰越額 | R7年度 決算増減率 | R8年度 当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費合計 （A） | 円 | 315,252,890 | 1,099,955,284 | 392,459,816 | 391,831,036 | 0 | -64.4% | 0 |
| 事業費 財源内訳 ①国庫支出金 | 円 | 19,657,000 | 36,292,000 | 151,268,000 | 151,268,000 | | 316.8% | |
| 事業費 財源内訳 ②県支出金 | 円 | | | | | | | |
| 事業費 財源内訳 ③地方債 | 円 | 266,015,000 | 969,200,000 | 211,900,000 | 211,900,000 | | -78.1% | |
| 事業費 財源内訳 ④その他（使用料、雑入等） | 円 | | 74,000,000 | 12,600,000 | | | | |
| 事業費 財源内訳 ⑤一般財源 | 円 | 29,580,890 | 20,463,284 | 16,691,816 | 28,663,036 | | 40.1% | |
| 人件費 ①事務事業に携わる正規職員数 | 人 | 2 | 2 | 2 | 2 | ― | 0.0% | 2 |
| 人件費 ②年間所要時間 | 時間 | 1,600 | 1,600 | 1,600 | 1,600 | ― | 0.0% | 0 |
| 人件費 ③人件費（②×@ 4,104 円）（B） | 円 | 6,566,400 | 6,566,400 | 6,566,400 | 6,566,400 | ― | 0.0% | 0 |
| 総費用（A＋B） | 円 | 321,819,290 | 1,106,521,684 | 399,026,216 | 398,397,436 | 0 | -64.0% | 0 |

## 5 取組内容

令和7年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等

（令和７年度）
・工期、工事監理履行期間の各延長（３か月）
・学校施設環境改善交付金の各手続
・設置条例の整理（魚津テクノスポーツセンター条例改正）
・整備だよりの発行
・施設周辺の環境整備（駐車場ライン更新、駐車場番号変更等）
・令和７年６月末完成
・供用開始に向けた諸準備（機器の取扱説明会、備品購入等）
・令和７年８月１日供用開始（事前の見学会、同日の竣工式及びOPイベントの開催）

## 6 評価

| 評価の視点 | R6評価 | R7評価 | 個別評価の項目 | 個別評価の判定 |
|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | A | A | ① 自治体関与の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ② 目的の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ③ 対象の妥当性 | 1 妥当である |
| 有効性 | A | A | ① 目標達成度 | 1 高い |
| | | | ② 類似事業の有無 | 1 なし |
| | | | ③ 上位施策への貢献度 | 1 高い |
| 効率性 | A | B | ① コスト効率 | 2 普通 |
| | | | ② 実施主体の適正化 | 1 適正である |
| | | | ③ 負担割合の適正化 | 1 適正である |
| 結果(総括) | A | A | 現行どおり管理運営を行うことが適当 | |

今後の方針

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 現状を維持 | | 事業の拡充 |
| | 事業の縮小 | | 統合等の検討 |
| | 事業の休止 | | 終了又は廃止 |

方針の説明等

令和７年８月に新プールが供用開始されたことを踏まえ、施設の特性を最大限に活かしながら、関係施設との連携を強化し、相乗効果による一体的な利活用を推進することで、着実な利用促進と安定的な運営の確立を図る。

補助金

# 令和7年度実績に関する事務事業評価表

事業No. 20

## 1 基本項目

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 老人クラブ事業 | | | 担当部署 | 課等名 | 社会福祉課 |
| 予算事業名 | 老人クラブ事業 | | | | 係名 | 高齢福祉係 |
| 新規・継続区分 | 継続事業 | | | | 電話番号 | 0765-23-1007 |
| 事務区分 | 自治事務 | | | 予算科目 | 会計 | 一般会計 |
| 事業期間 | 開始年度 | 昭和35年度以前 | 終了年度 | 当面継続 | 款 | 民生費 |
| 総合計画 目標名 | 目標２．未来につなぐまち | | | | 項 | 社会福祉費 |
| 総合計画 政策名 | 政策09．いつまでも健やかなまちづくり | | | | 目 | 老人のための明るいまち推進事業 |
| 総合計画 施策名 | 施策21．いきいきとしたライフスタイルの実現 | | | | 総合計画主な事業 | 記載あり（評価対象） |
| 総合計画 基本事業名 | 基本事業21－２．高齢者の社会参加の促進 | | | | 総合戦略との関連 | 関連なし |
| 根拠法令 | | | | | 集中プランとの関連 | 関連なし |
| ＤＸ導入状況 | 導入予定なし | | | | 評価対象年度の重点事業 | 非該当 |

## 2 事業概要

| | |
|---|---|
| 事業概要 | 魚津市老人クラブ連合会及び単位老人クラブの活動を支援する。 |
| 対象 | 60歳以上で、単位老人クラブに加入する者 |
| 手段（活動指標） | 魚津市老人クラブ連合会へ健康づくり事業、ボランティア事業、世代交流事業等の各種事業を委託し、単位老人クラブに対してはボランティア活動・生きがいを高める活動・健康づくり活動などの事業実施のために助成金を交付。 |
| 意図（成果指標） | 単位老人クラブに加入する高齢者が健康を維持し、生きがいを見つけることができる。 |

## 3 指標

| 活動指標名・成果指標名 | 単位 | R5年度 実績 | R6年度 実績 | R7年度 計画 | R7年度 実績 | R7年度 達成率 | R8年度 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動 ① 老人クラブ会員数 | 人 | 3,542 | 3,357 | 3,041 | 3,085 | 101.4% | 2,899 |
| 活動 ② 単位老人クラブ数 | 数 | 60 | 58 | 56 | 56 | 100.0% | 53 |
| 成果 ① 加入率（加入者数/60歳以上人口・３月末） | % | 22 | 21 | 20 | 20 | 100.0% | 20 |
| 成果 ② | | | | | | | |

## 4 コスト情報

| 区分 | 単位 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 | R7年度 予算現額 | R7年度 決算額 | R7年度 次年度への繰越額 | R7年度 決算増減率 | R8年度 当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費合計 （A） | 円 | 4,227,024 | 3,995,664 | 4,235,000 | 3,865,560 | 0 | -3.3% | 3,867,000 |
| 財源内訳 ①国庫支出金 | 円 | | | | | | | |
| 財源内訳 ②県支出金 | 円 | 2,290,000 | 2,157,000 | 2,293,000 | 2,082,000 | | -3.5% | 2,145,000 |
| 財源内訳 ③地方債 | 円 | | | | | | | |
| 財源内訳 ④その他（使用料、雑入等） | 円 | | | | | | | |
| 財源内訳 ⑤一般財源 | 円 | 1,937,024 | 1,838,664 | 1,942,000 | 1,783,560 | | -3.0% | 1,722,000 |
| 人件費 ①事務事業に携わる正規職員数 | 人 | 1 | 1 | 1 | 1 | ― | 0.0% | 1 |
| 人件費 ②年間所要時間 | 時間 | 400 | 400 | 400 | 400 | ― | 0.0% | 400 |
| 人件費 ③人件費（②×@ 4,104 円）（B） | 円 | 1,641,600 | 1,641,600 | 1,641,600 | 1,641,600 | ― | 0.0% | 1,641,600 |
| 総費用（A＋B） | 円 | 5,868,624 | 5,637,264 | 5,876,600 | 5,507,160 | 0 | -2.3% | 5,508,600 |

## 5 取組内容

令和7年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等

○魚津市老人クラブ連合会へ健康づくり事業、ボランティア事業、世代交流事業等の各種事業を委託した。
○広報誌「老悠連」を年１回発行
○単位老人クラブに対してボランティア活動・生きがいを高める活動・健康づくり活動などの事業実施のために助成金を交付した。

## 6 評価

| 評価の視点 | R6評価 | R7評価 | 個別評価の項目 | 個別評価の判定 |
|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | A | A | ① 自治体関与の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ② 目的の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ③ 対象の妥当性 | 1 妥当である |
| 有効性 | A | A | ① 目標達成度 | 2 目標どおり |
| | | | ② 類似事業の有無 | 1 なし |
| | | | ③ 上位施策への貢献度 | 1 高い |
| 効率性 | A | A | ① コスト効率 | 1 高い |
| | | | ② 実施主体の適正化 | 1 適正である |
| | | | ③ 負担割合の適正化 | 1 適正である |
| 結果(総括) | A | A | 現行どおり補助することが適当 | |

今後の方針

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 現状を維持 | | 事業の拡充 |
| | 事業の縮小 | | 統合等の検討 |
| | 事業の休止 | | 終了又は廃止 |

方針の説明等

高齢化率が上昇する一方で老人クラブの加入率が低下傾向にある。当該事業は高齢者の介護予防に大きく寄与していると思われることから、老人クラブ連合会と連携しながら、魅力ある老人クラブづくりを進め加入率の低下を防ぐ必要がある。

内部管理

# 令和7年度実績に関する事務事業評価表

事業No. 21

## 1 基本項目

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 高齢者生きがい事業 | 担当部署 | 課等名 | 社会福祉課 | |
| 予算事業名 | 高齢者生きがい事業 | | 係名 | 高齢福祉係 | |
| 新規・継続区分 | 継続事業 | | 電話番号 | 0765-23-1007 | |
| 事務区分 | 自治事務 | 予算科目 | 会計 | 一般会計 | |
| 事業期間 | 開始年度：昭和60年以前 / 終了年度：当面継続 | | 款 | 民生費 | |
| 総合計画 目標名 | 目標２．未来につなぐまち | | 項 | 社会福祉費 | |
| 総合計画 政策名 | 政策09．いつまでも健やかなまちづくり | | 目 | 老人のための明るいまち推進事業 | |
| 総合計画 施策名 | 施策21．いきいきとしたライフスタイルの実現 | 総合計画主な事業 | | 記載あり（評価対象） | |
| 総合計画 基本事業名 | 基本事業21－２．高齢者の社会参加の促進 | 総合戦略との関連 | | 関連なし | |
| 根拠法令 | | 集中プランとの関連 | | 関連なし | |
| ＤＸ導入状況 | 導入予定なし | 評価対象年度の重点事業 | | 非該当 | |

## 2 事業概要

| | |
|---|---|
| 事業概要 | ねんりんピック等の全国大会参加への助成金の支給。<br>平成26年度からは、高齢者の生きがいづくりの拠点施設として、魚津市高齢者いきいきセンターを設置し、指定管理者制度における運営を開始した。 |
| 対象 | おおむね60歳以上の元気高齢者 |
| 手段（活動指標） | 魚津市高齢者いきいきセンターを運営し、高齢者の生きがいづくりの機会創出を図る。 |
| 意図（成果指標） | 高齢者の生きがい事業を実施することにより、高齢者が積極的に地域活動に参加し、住み慣れた地域で元気に暮らすことができる。 |

## 3 指標

| | 活動指標名・成果指標名 | 単位 | R5年度 実績 | R6年度 実績 | R7年度 計画 | R7年度 実績 | R7年度 達成率 | R8年度 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動 | ① 全国大会参加種目 | 件 | 5 | 0 | 5 | 2 | 40.0% | 5 |
| 活動 | ② 高齢者いきいきセンター開館日数 | 日 | 240 | 240 | 240 | 240 | 100.0% | 240 |
| 成果 | ① 全国大会参加者数 | 人 | 12 | 0 | 10 | 13 | 130.0% | 10 |
| 成果 | ② 高齢者いきいきセンター利用者数 | 人 | 4,726 | 4,514 | 4,600 | 4,054 | 88.1% | 4,100 |

## 4 コスト情報

| | 区分 | 単位 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 | R7年度 予算現額 | R7年度 決算額 | R7年度 次年度への繰越額 | R7年度 決算増減率 | R8年度 当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 事業費合計（A） | 円 | 1,300,719 | 1,320,000 | 1,520,000 | 1,450,000 | 0 | 9.8% | 1,520,000 |
| 財源内訳 | ①国庫支出金 | 円 | | | | | | | |
| 財源内訳 | ②県支出金 | 円 | | | | | | | |
| 財源内訳 | ③地方債 | 円 | | | | | | | |
| 財源内訳 | ④その他（使用料、雑入等） | 円 | 1,000 | | | | | | |
| 財源内訳 | ⑤一般財源 | 円 | 1,299,719 | 1,320,000 | 1,520,000 | 1,450,000 | | 9.8% | 1,520,000 |
| 人件費 | ①事務事業に携わる正規職員数 | 人 | 1 | 1 | 1 | 1 | － | 0.0% | 1 |
| 人件費 | ②年間所要時間 | 時間 | 40 | 40 | 40 | 100 | － | 150.0% | 100 |
| 人件費 | ③人件費（②×@ 4,104 円）（B） | 円 | 164,160 | 164,160 | 164,160 | 410,400 | － | 150.0% | 410,400 |
| 総費用（A＋B） | | 円 | 1,464,879 | 1,484,160 | 1,684,160 | 1,860,400 | 0 | 25.4% | 1,930,400 |

## 5 取組内容

令和7年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等

○指定管理者制度により魚津市高齢者いきいきセンターの運営を行った。

## 6 評価

| 評価の視点 | R6評価 | R7評価 | 個別評価の項目 | 個別評価の判定 |
|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | A | A | ① 自治体関与の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ② 目的の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ③ 対象の妥当性 | 1 妥当である |
| 有効性 | B | B | ① 目標達成度 | 2 目標どおり |
| | | | ② 類似事業の有無 | 1 なし |
| | | | ③ 上位施策への貢献度 | 2 普通 |
| 効率性 | B | B | ① コスト効率 | 2 普通 |
| | | | ② 実施主体の適正化 | 1 適正である |
| | | | ③ 負担割合の適正化 | 1 適正である |
| 結果(総括) | B | B | 事業の進め方・内容について改善の余地あり | |

今後の方針

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 現状を維持 | | 事業の拡充 |
| | 事業の縮小 | | 統合等の検討 |
| | 事業の休止 | | 終了又は廃止 |

方針の説明等

老人趣味の家は、R５で廃止し、R６から普通財産として老人クラブに無償貸与。
高齢者いきいきセンターは、利活用をさらに促すことも必要である。
R７からシルバー人材センターへの補助拡充に併せて、施設の大規模改修に備え、協力金を負担してもらう。

補助金

# 令和7年度実績に関する事務事業評価表

事業No. 22

## 1 基本項目

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 就業機会確保事業 | 担当部署 | 課等名 | 社会福祉課 | |
| 予算事業名 | 就業機会確保事業 | | 係名 | 高齢福祉係 | |
| 新規・継続区分 | 継続事業 | | 電話番号 | 0765-23-1007 | |
| 事務区分 | 自治事務 | 予算科目 | 会計 | 一般会計 | |
| 事業期間 | 開始年度 昭和63年 / 終了年度 当面継続 | | 款 | 民生費 | |
| 総合計画 目標名 | 目標２．未来につなぐまち | | 項 | 社会福祉費 | |
| 総合計画 政策名 | 政策09．いつまでも健やかなまちづくり | | 目 | 老人のための明るいまち推進事業 | |
| 総合計画 施策名 | 施策21．いきいきとしたライフスタイルの実現 | 総合計画主な事業 | | 記載あり（評価対象） | |
| 総合計画 基本事業名 | 基本事業21－２．高齢者の社会参加の促進 | 総合戦略との関連 | | 関連なし | |
| 根拠法令 | | 集中プランとの関連 | | 関連なし | |
| ＤＸ導入状況 | 導入予定なし | 評価対象年度の重点事業 | | 非該当 | |

## 2 事業概要

| | |
|---|---|
| 事業概要 | 高齢者の就業支援を行うシルバー人材センターの活動に対して補助金を交付し、生きがいづくりや社会参加の促進を支援する。 |
| 対象 | おおむね60歳以上の元気高齢者 |
| 手段（活動指標） | シルバー人材センターの就業活動に対する補助金 |
| 意図（成果指標） | 高齢者が労働・作業に従事することにより、生きがいをみいだし、健康な状態を保つことができる。 |

## 3 指標

| | 活動指標名・成果指標名 | 単位 | R5年度 実績 | R6年度 実績 | R7年度 計画 | R7年度 実績 | R7年度 達成率 | R8年度 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動 | ① 補助金額 | 千円 | 9,950 | 9,950 | 11,855 | 11,855 | 100.0% | 11,855 |
| 活動 | ② | | | | | | | |
| 成果 | ① シルバー人材センター登録者数（３月末現在） | 人 | 566 | 549 | 550 | 581 | 105.6% | 590 |
| 成果 | ② | | | | | | | |

## 4 コスト情報

| | 区分 | 単位 | R5年度 決算額 | R6年度 決算額 | R7年度 予算現額 | R7年度 決算額 | R7年度 次年度への繰越額 | R7年度 決算増減率 | R8年度 当初予算額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 事業費合計（A） | 円 | 9,950,000 | 9,950,000 | 11,855,000 | 11,855,000 | 0 | 19.1% | 11,855,000 |
| 事業費 財源内訳 | ①国庫支出金 | 円 | | | | | | | |
| 事業費 財源内訳 | ②県支出金 | 円 | | | | | | | |
| 事業費 財源内訳 | ③地方債 | 円 | | | | | | | |
| 事業費 財源内訳 | ④その他（使用料、雑入等） | 円 | 2,700,000 | 1,200,000 | 3,000,000 | 3,000,000 | | 150.0% | 3,000,000 |
| 事業費 財源内訳 | ⑤一般財源 | 円 | 7,250,000 | 8,750,000 | 8,855,000 | 8,855,000 | | 1.2% | 8,855,000 |
| 人件費 | ①事務事業に携わる正規職員数 | 人 | 1 | 1 | 1 | 1 | － | 0.0% | 1 |
| 人件費 | ②年間所要時間 | 時間 | 200 | 100 | 100 | 100 | － | 0.0% | 100 |
| 人件費 | ③人件費（②×@ 4,104 円）（B） | 円 | 820,800 | 410,400 | 410,400 | 410,400 | － | 0.0% | 410,400 |
| 総費用（A＋B） | | 円 | 10,770,800 | 10,360,400 | 12,265,400 | 12,265,400 | 0 | 18.4% | 12,265,400 |

## 5 取組内容

令和7年度に取り組んだ事務事業の内容や事業費の主な内訳等

○シルバー人材センター運営に対する補助金を交付した。

## 6 評価

| 評価の視点 | R6評価 | R7評価 | 個別評価の項目 | 個別評価の判定 |
|---|---|---|---|---|
| 妥当性 | A | A | ① 自治体関与の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ② 目的の妥当性 | 1 妥当である |
| | | | ③ 対象の妥当性 | 1 妥当である |
| 有効性 | A | A | ① 目標達成度 | 1 高い |
| | | | ② 類似事業の有無 | 1 なし |
| | | | ③ 上位施策への貢献度 | 1 高い |
| 効率性 | B | B | ① コスト効率 | 2 普通 |
| | | | ② 実施主体の適正化 | 1 適正である |
| | | | ③ 負担割合の適正化 | 1 適正である |
| 結果(総括) | A | A | 現行どおり補助することが適当 | |

今後の方針

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | 現状を維持 | | 事業の拡充 |
| | 事業の縮小 | | 統合等の検討 |
| | 事業の休止 | | 終了又は廃止 |

方針の説明等

高齢者の就業機会確保に果たすシルバー人材センターの役割は大きく、補助を継続することが必要である。